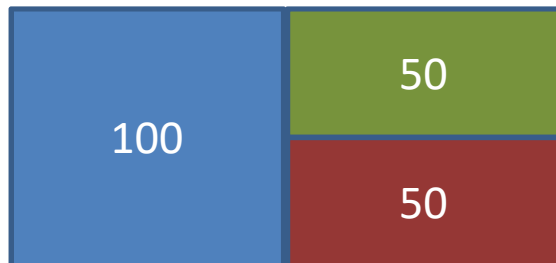


M&Aによって総資産が増加し 財務体質が悪化するとは？



あとの解説を省くために、この資料では、資産・負債・純資産は左記の色分けで表現します。面積は金額を表すと考えて下さい。

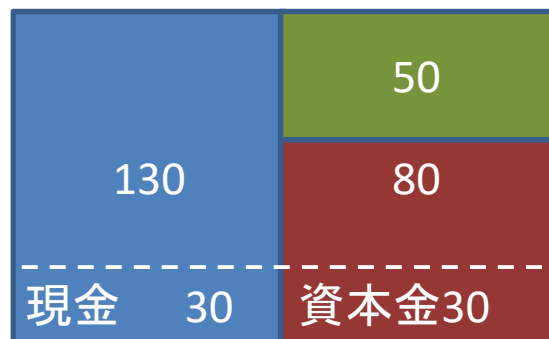
①



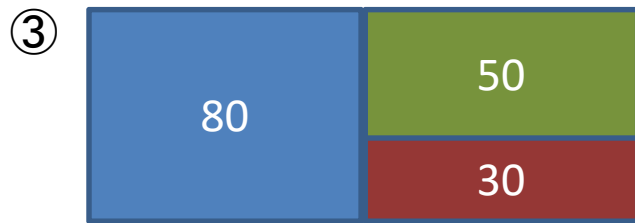
左記のような会社①が会社③を30でM&Aすることになりました。自己資本比率50%の会社③の株式購入資金を、増資で30調達しました。

この時点で、資産増加30、純資産増加30で②のようにになっているはずですが、

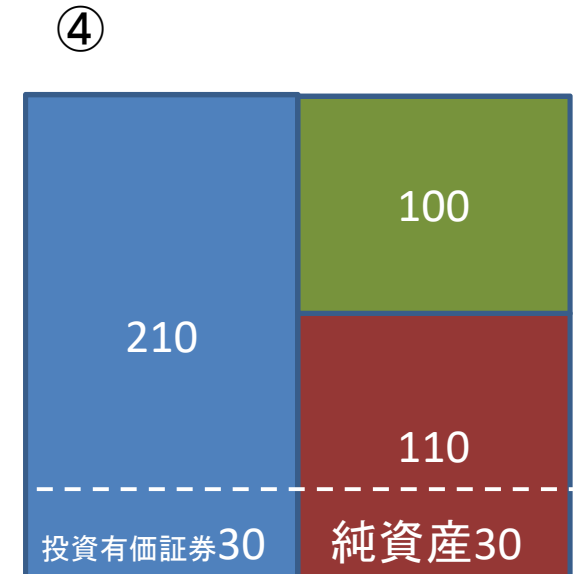
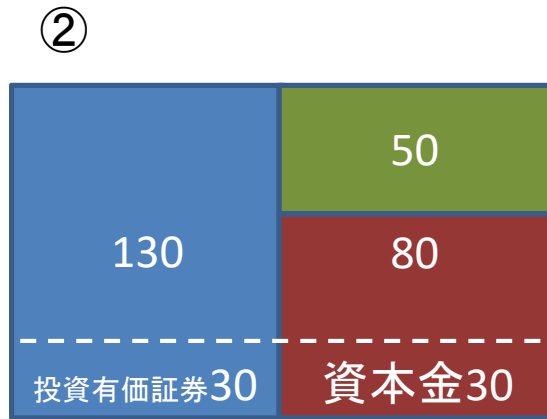
②



その後30で株式を購入したとしても、現金が投資有価証券に変わるだけなので、②と同じ状況です。



買われる会社③
自己資本比率37%
買う会社の50%より悪い。

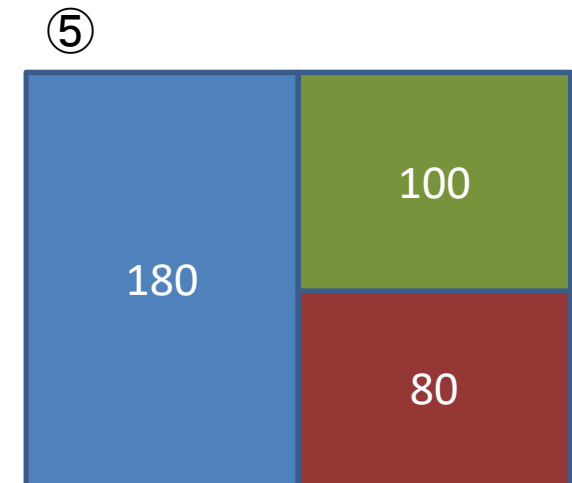


単純には上のように足され、合併後は④のようになります。

しかし②にある投資有価証券と、③にある純資産は、④の中で重複する為、相殺されます。

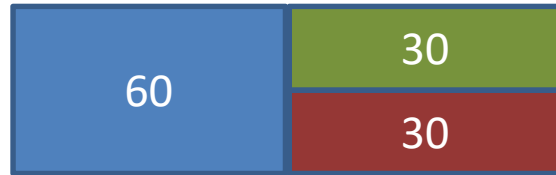
資産減少30、純資産減少30を行った⑤では、自己資本比率44%になってしまいます。

買われる会社③の財務体質の悪さに引っ張られて悪化したのです。



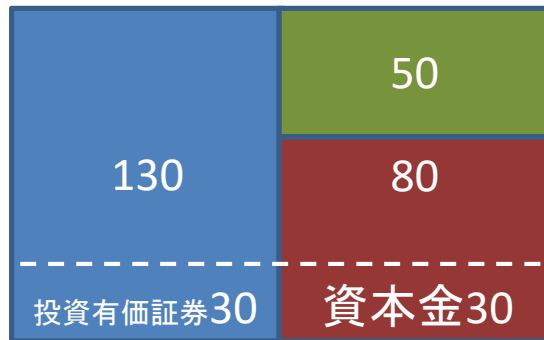
2社の財務体質全く同じなら？

③



左記のような会社③を買うつもりです。自己資本比率は会社①と同じ50%です。

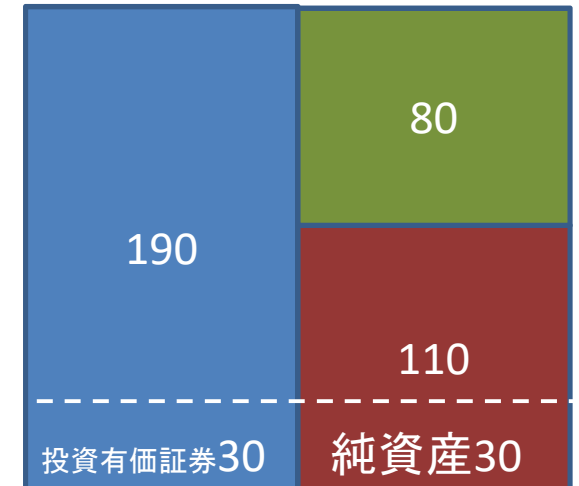
②



③



④

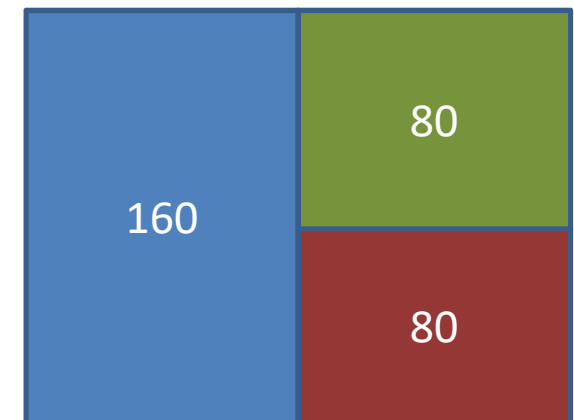


単純には上のように足され、④になります。

しかし②にある投資有価証券と、③にある純資産は、重複する為、相殺されます。資産減少30、純資産減少30で、⑤になります。

自己資本比率50%になりました。

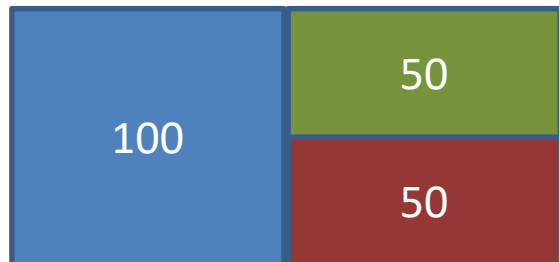
⑤



M&Aで財務体質を悪化したくなければ、自社より財務体質の良い会社をM&Aすればよいのですが、現実にはそうでもありません。

資金調達方法により違いがあるの？

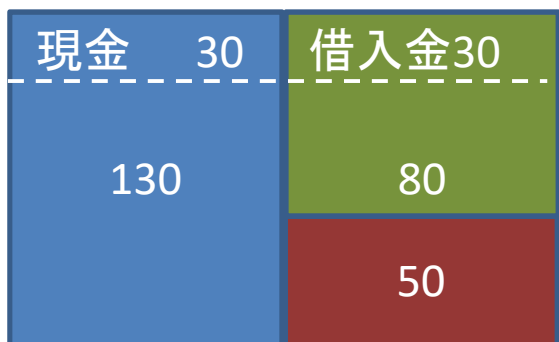
①



左記のような会社①が会社③を30でM&Aすることになりました。2社とも自己資本比率50%です。

30で買うことになり、借入金で30資金調達しました。

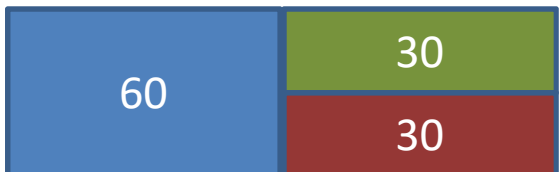
②



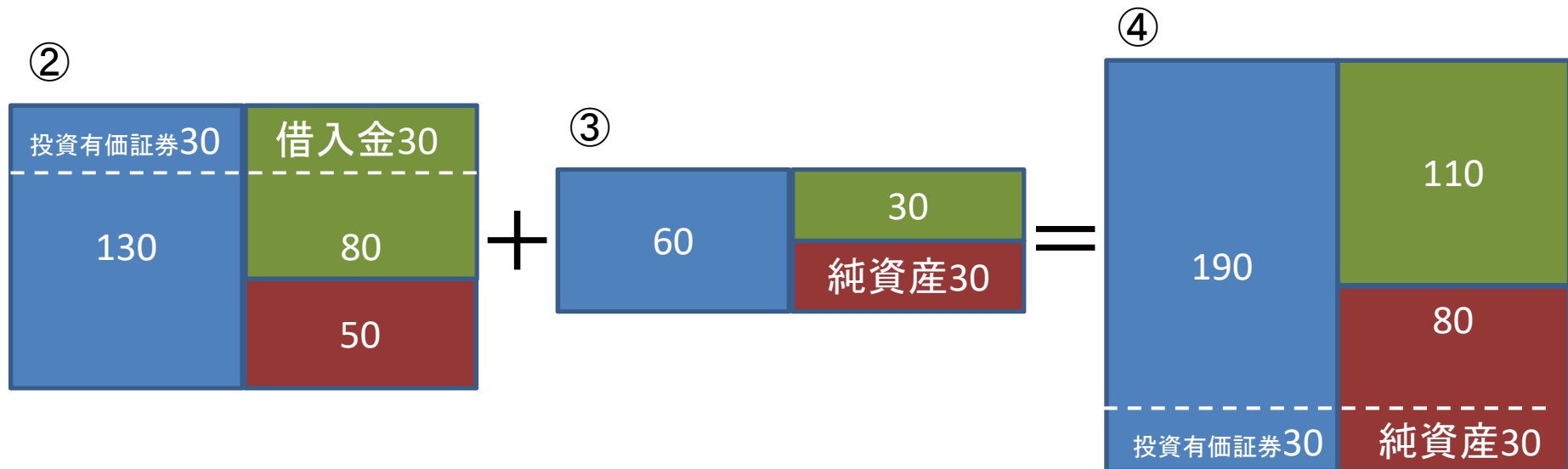
この時点で、資産増加30、借入金増加30で②のようになっているはずですが。

その後30で株式を購入したとしても、現金が投資有価証券に変わるだけなので、②と同じ状況です。

③

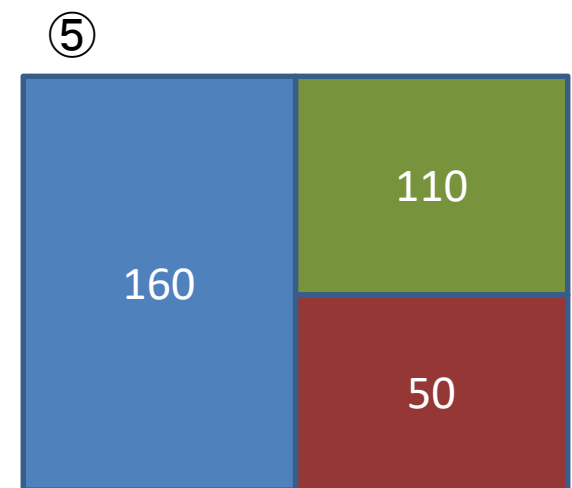


左記のような会社③をかうつもりです。自己資本比率50%で、会社②と同じ。



単純には上のように足され、④のようになります。
 しかし②にある投資有価証券と、③にある純資産は、重複する為、相殺されます。
 資産減少30、純資産減少30で、⑤になります。
 自己資本比率31%になりました。

M&Aで財務体質を悪化したくなければ、資金調達を借入金で行わなければ良いのですが、現実にはそうでもありません。



結論

1. 買われる会社が買う会社よりも財務体質が良く、かつ、M&A資金を増資で賄えば、財務体質は悪化しない。
2. しかし、現実には、買われる会社の方が財務体質が悪いことも多く、M&Aの資金は借入金に頼るケースが多い。
3. 現実が2であったとしても、M&A後の営業効率が良い、純資産が急速に増加すれば、時を経て財務体質は回復する。

※説明の為、モデルを簡略化しており、全てではありません。

※財務体質を示す財務指標も複数ありますが、説明の為無視しています。